展覧会への招待　明治前期教育用絵図展

柿崎博孝

はじめに

明治維新以後、子どもたちの生活に大きな変化がおきました。それは全国に小学校が設立され、学齢児童の就学励行が行われるようになったことです。わが国の近代教育制度は欧米の制度を模範として成立し、その特質のひとつは、国の管理のもとに、すべての国民を対象として学校を設立し、組織していった公教育制度にありました。

もうひとつの特質としては、教育制度が近代産業の発展に密接に関わっている点があげられます。当時の国策は富国、そして産業の振興という面を重要視していました。これは大人だけではなく、未来を担う子どもたちにとって、産業につながる豊かな知識を得るようにすることが必要と考えていたからです。そのため政府は博物館の設置や博覧会事業を積極的に展開し、学校教育以外にもさまざまな形で教育の場を提供していきました。

今回の展覧会では、本館のコレクションの中から、明治初年から10年代までに教育用の絵図として発行されたものにスポットをあて、新しい教育のはじまりを、そこから見ていこうとするものです。

展示は「掛図の誕生」「博物館と博覧会」「家庭教育」「絵図を制作した画家たち」というテーマから構成されていますが、ここでは展示のメインとなる4つの絵図を簡単に紹介いたします。

博物図

東京師範学校は明治5（1872）年に編集局を設け、欧米の教科書を参考に、翻訳や翻案によって教科書の刊行にあたっていましたが、翌6年に米国で刊行されていた各種の初等教育用チャートを模して、単語図・連語図・五十音図など計28枚を製作しました。その後明治7（1874）年に、師範学校編集刊行の掛図は改版され、全国各地で翻刻されて普及していきました。

このような掛図の他に文部省が刊行した掛図が博物図です。博物図は明治6（1873）年1月から明治11（1878）年3月までの間に刊行されたもので、植物関係5図、動物関係5図からなり、銅版印刷によって製作されています。植物の分野は小野職愨（もとよし）、動物分野は田中芳男の選により、校閲者には久保弘道、榊原芳野、最上孝吉らがあたり、図は加藤竹斎、長谷川竹葉、服部雪斎が担当しています。

この掛図は単語図・連語図・五十音図などの掛図と同様に、主に当時の教授法における「問答」で使用されたものですが、子どもたちにとっては、科学学習の入門となる性格をもっていたといえます。

第二博物図　瓜花一覧　文部省　小野職愨選　久保弘道校　長谷川竹葉画　銅版印刷　73×46cm　明治6年

動物図　ヤマドリ　文部省　服部雪斎画　木版色刷　21×32cm　明治5年

動物図

木版色刷りで一枚ものの動物図は、明治5年から12（1879）年にかけて文部省博物局（明治8年